資料５

建築空間と知的活動の階層モデル

B（Behavior）人の意識・行動・体験

第1階層 情報処理
知識情報の定型処理・事務処理

- B1 ﾙｰﾁﾝﾜｰｸ
- B2 定例報告 等

第2階層 知識処理
知識情報の調査探索、加工処理
知的価値向上

Ba 環境整備

- B3 資料調査
- B4 資料作成
- B5 自席で集中 等

Bb 場の活性化

- B6 ﾌﾞﾚｰﾝ・ｽﾄｰﾐﾝｸﾞ
- B7 意見交換
- B8 ｲﾝｽﾊﾟｲｱ 等

第3階層 知識創造
価値創造、ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ

Bc 人の行動

- B9 ぶらぶら歩く
- B10 外を眺める
- B11 沈思黙考
- B12 談笑 等
- B13 発想異なる人と雑談
- B14 スケッチ

P（Planning）空間／環境・設備の計画

Pa 現状のパラダイムの下での環境維持

- P1 労働環境（熱・空気・光）
- P2 衛生環境（環境計測・清掃）

Pb 現状のパラダイムの下での空間／環境の質の向上

- P3 快適環境（心理・生理・物理）
- P4 健康環境（内装材料等）
- P5 空間品質（広さ・ｲﾝﾃﾘｱ・家具・IT等）
- P6 生活の質（レクリエーション他）

Pc 知識創造を刺激する空間と環境

- P7 集中できる空間と環境
- P8 ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝできる空間と環境（ﾌｫｰﾏﾙ）（ｲﾝﾌｫｰﾏﾙ）
- P9 ﾘﾗｯｸｽする空間と環境
- P10 ﾘﾌﾚｯｼｭする空間と環境

経路・結節点等を通じてモードが変化

R（Rating）知的生産性の評価・格付け（CASBEEによる）

Ra 労働環境／作業効率評価

- R1 欠勤率・健康管理コスト・達成された仕事量・ミスの数等の評価
- R2 尺度は粗いが測定は容易．部分的に現行ﾂｰﾙに組み込まれている

Rb 知的価値向上評価（作業効率・生理心理 等）

- R3 作業効率・生理心理に与える影響を定量評価．経済性評価も目標
- R4 測定方法はやや複雑．現在研究進行中

Rc 知的価値創造評価

- R5 空間や環境が場の活性化や知識創造に与える影響を評価
- R6 測定方法は未確立．将来の課題